



令和2年11月12日

報道機関 各位

東北大学大学院教育学研究科  
北海道教育大学釧路校

## 新型コロナウイルスに対する日本人の恐怖を調査 ウイルスへの恐怖感と対処行動の理由が明らかに

### 【発表のポイント】

- ◆ 一般成人を対象に新型コロナウイルスへの恐怖感とその恐怖感に対する対処行動との関係を日本で初めて特定した。
- ◆ 新型コロナウイルスへの恐怖感が、体調チェックなど日常生活における新型コロナウイルスへの警戒心を高める。
- ◆ 新型コロナウイルスへの恐怖感があるなかで、社会状況や周囲の人々の視線を気にして行動することにより、買いだめといった社会的な混乱を引き起こしうる行動につながりやすい。
- ◆ 新型コロナウイルスへの恐怖感があるなかで、自分自身で考え決定して行動することにより、日常生活における感染対策への意識が高まる。

### 【概要】

これまで日本では、新型コロナウイルスの感染をめぐる心理学的な研究は十分に行われていませんでした。東北大学大学院教育学研究科の若島孔文(わかしま こうぶん)教授、北海道教育大学釧路校の浅井継悟(あさい けいご)准教授を中心とする研究グループは、日本で初めて、一般成人を対象にした新型コロナウイルスに対する恐怖感と恐怖感から生じる対処行動の関係について報告しました。

日本国内在住の450名を対象にWeb調査を行った結果、新型コロナウイルスへの恐怖感に対して、社会状況や周囲の人々の視線を気にして行動することで、買いだめなど社会的な混乱を引き起こしうる行動につながりやすいことが示されました。一方、新型コロナウイルスへの恐怖感があるなかで、自分自身で考え決定して行動することで、日常生活における感染対策への意識が高まることが明らかになりました。

本研究成果は、新型コロナウイルスへの不安や恐怖感の増加を理解し、コロナウイルスをめぐる様々な偏見や差別が生じるのを防ぐことに大いに役立つと言えます。

本研究成果は、オンライン学術誌 PLOS ONE で11月5日に公開されました。

**【問い合わせ先】**

(研究に関すること)

東北大学大学院教育学研究科

教授 若島 孔文(わかしま こうぶん)

電話番号: (022) 795-6139

E-mail: [k\\_wakashima@sed.tohoku.ac.jp](mailto:k_wakashima@sed.tohoku.ac.jp)

(取材に関すること)

東北大学教育学部・教育学研究科総務企画係

電話番号: (022) 795-6103

E-mail: [sed-syom@grp.tohoku.ac.jp](mailto:sed-syom@grp.tohoku.ac.jp)

## 【詳細な説明】

日本国内では、2020年1月に初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから、武漢市へ渡航歴のない邦人の感染や、クラスター感染が重なり、感染者が急激に増加しました。2020年4月16日には「緊急事態宣言」が発表され、小中学校が休校になったり、テレワークが推奨されたりと人々の生活が大きく変化しました。マスクや消毒液の買い占めといった様々な社会的な混乱が生じ、医療従事者や感染した人に対する偏見や差別も問題視されています。

海外では、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、新型コロナウイルスの感染への恐怖感についての研究がいくつか行われていましたが、日本では新型コロナウイルスの感染をめぐる心理学的な研究は十分に行われていませんでした。

そこで、本研究では、すでに海外の研究者によって作成されていた、新型コロナウイルス恐怖尺度 (Fear of COVID-19 Scale) を日本語に翻訳し、どのような人が新型コロナウイルスへの恐怖感が高いのか明らかにしました。また、新型コロナウイルスに対する情報の収集や、手洗いうがいやマスクの着用などといった対処行動に着目し、コロナウイルスへの恐怖感と対処行動の関係を明らかにしました。さらに、コロナウイルスへの恐怖感に対する対処行動が、自分自身の意志である「自己決定」によって行われたものなのか、社会状況や周囲の人々の視線を気にした「同調」によって行われたものなのか、対処行動の理由に着目しました。

緊急事態宣言が出された2日後に日本国内在住の450名(男性291名、女性159名、年齢平均48.13歳)を対象にWeb調査を行いました。その結果、新型コロナウイルスへの恐怖感、性別や年齢によって違いが見られないことが明らかになりました。加えて、家族と一緒に住んでいるかどうか、身近に感染者がいるかどうかによっても新型コロナウイルスへの恐怖感が変わらないことも示されました。そのほか、本研究において明らかになった新たな知見は次の3つです。

- ① **新型コロナウイルスに対する恐怖感が、体調チェックなど日常生活における新型コロナウイルスへの警戒心を高める。**
- ② **新型コロナウイルスへの恐怖感があるなかで、社会状況や周囲の人々の視線を気にして行動することにより、買いだめといった社会的な混乱を引き起こしうる行動につながりやすい。**
- ③ **新型コロナウイルスへの恐怖感があるなかで、自分自身で考え決定して行動することにより、日常生活における感染対策への意識が高まる。**

本研究のように、人々の新型コロナウイルスに対する不安や恐怖感を測定することは、多くの人々が感じているウイルスへの不安の増加を理解することに大いに役立つと言えます。また、新型コロナウイルスをめぐる差別や偏見が生じるのを防ぐことにつながると言えます。

【参考図】 対処行動をとる理由

自己決定	周囲への同調
<ul style="list-style-type: none"><li>• 自分が必要だと感じて行動していた</li><li>• 自分の判断で、行動していた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ほかに人たちから言われて、そのように行動していた</li><li>• ほかに人たちからの非難をおそれて、そのように行動していた</li><li>• 周囲に合わせて行動していた</li><li>• 本当は必要ないと思いつつ、行動していた</li></ul>

【論文題目】

The Japanese version of the Fear of COVID-19 scale: Reliability, validity, and relation to coping behavior

Authors: Koubun Wakashima, Keigo Asai, Daisuke Kobayashi, Kohei Koiwa, Saeko Kamoshida, Mayumi Sakuraba

日本語タイトル: 日本語版新型コロナウイルス恐怖尺度—信頼性と妥当性の検討及び、対処行動との関連—

掲載誌: PLOS ONE

DOI: <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0241958>